

1 PLAN(目的・概要)

その他経常業務

政策名	物流・産業		責任者	港営部 海務課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化		連絡先	052-654-7880	
事務事業名	無線通信事務		連携課		
目的	対象(誰・何を)	入出港船舶及び港湾関係者	事業期間	昭和26年度～継続	
	意図(どういった状態にしたいか)	安全で効率的な船舶航行を促し、円滑な港湾利用に寄与します。			
概要	名古屋港入出港船舶と国際VHF無線電話(ポータラジオ)により通信を行い、本船動静情報の入手や水先人、タグボート、係留施設、荷役状況等の情報提供を行います。		根拠法令等	名古屋港管理組合港湾施設条例及び同施行規則	
活動内容	取り扱う通信の内容は、①伊良湖水道航路通過時刻、港外や高潮防波堤の到着予定時刻、アンカー位置・時刻等の本船情報 ②水先人やタグボートのスケジュール情報 ③先船の荷役状況等の係留施設情報 ④風向、風速等の気象情報等です。また、鍋田ふ頭コンテナターミナル利用船舶に対しては、特定運用方法により、離着岸を円滑に行うための調整を行います。			実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
				関連シート	

2 DO(実施)

コスト	単位	27年度	28年度	29年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	7,215	35,520	35,464	26,066	平成28年度からの夜間委託により、事業費は大幅増となったが、人件費は半減した。
人件費	千円	56,378	27,308	28,489	37,392	
合計	千円	63,593	62,828	63,953	63,458	

3 CHECK(検証)

指標名		27年度	28年度	29年度	中間目標 30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
適正な通信対応回数率(%) (単年度管理型)	目標	-	100	100	100	適正な通信対応回数÷無線通信回数	
	実績	100	100	100			
事業進捗状況(29年度)				目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
無線通信回数(回)	目標	-	-	-	-		
	実績	18,636	19,209	21,989			
事業進捗状況(29年度)				-			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	適正な通信対応回数率は達成できました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ ポータラジオの無線局免許は、公共事業用として港湾管理者に与えられるものであり、本組合が関与するべきものです。利用船舶と港湾関係者との橋渡しの役割としてのニーズは高く、また、利用船舶の運航調整業務に関しても、港湾関係者から高く評価されています。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○					
	期待どおりの成果が得られているか?	○ 常に適正な通信を行うことにより、安全で効率的な船舶運航及び港湾利用に寄与しています。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 平成28年度から夜間業務を委託したことにより、コスト削減が図られています。					

4 ACTION(取組)

課題	30年度以降の取組
さらなるコスト削減及び業務効率向上のため、平成34年度を目途に昼夜委託化を図ります。	昼夜委託化に向け、無線通信機器類の機能維持のあり方等について検討します。